



第5号様式 (第5条)

政務活動費収支報告書

平成28年4月6日

印西市議会議長 小川 美人 様

会 派 名 民主 党  
代 表 者 氏 名 玉 木 実  
経 理 責 任 者 氏 名 玉 木 実

平成27年5月11日付け印西総指令第~~1~~<sup>9</sup>号で交付決定のあった政務活動費について、印西市議会政務活動費の交付に関する条例第8条の規定により下記書類を添えて報告します。

記

添付書類

- 1 政務活動費収支内訳書
- 2 政務活動費実施報告書

別添

政 務 活 動 費 収 支 内 訳 書

会 派 名  
代 表 者 氏 名  
経 理 責 任 者 氏 名

民 主 党  
玉 木 実  
玉 木 実

1 収支実績

収 入 A	支 出 B	差 引 A-B
360,000 円	34,760 円	325,240 円

2 収支内訳

(1) 収入

項 目	内 容	金 額 (円)
政務調査費	30,000円 x 12月	360,000
合 計		360,000

(2) 支出

項 目	内 容	金 額 (円)
調査研究費	研修視察 (先進地視察に際し経費)	34,760 -
合 計		34,760 -

備考

- 1 使途基準の使途項目ごとに分類すること。
- 2 領収書等を添付すること。

領収書等貼付用紙

区		分	
調査研究費	研修費	広報費	広聴費
資料作成費	資料購入費	人件費	
領収書及び料金内訳明細等添付欄			

収入印紙



AA No. 052423

お客様コード 178395

平成 27年 6 月 22日

DATE

領 収 証 RECEIPT

RECEIVED FROM 印西市議会会派民主党 様

領 収 金 額 THE SUM OF ¥ 34,760-

7/6 - 7/8 航空券代 ¥ 14,760-

但し FOR 7/6 - 7/8 ご宿泊代 ¥ 20,000-

上記金額正に領収致しました  
The above sum has been duly received.



※クレジットカードによる領収(お支払い)の場合、印紙税法上の金銭又は有価証券の受取に該当しないため、収入印紙の貼付は不要となります。

FORM OF PAYMENT	
現金 CASH	
小切手 CHECK	
銀行振込 BANK REMITTANCE	✓ 6/12
ギフト券 GIFT TICKET	
クレジットカード CREDIT CARD	

東武トップツアーズ株式会社  
大阪市北区堂島浜2丁目2-28  
〒530-0004 (堂島アクシスビル7階)  
TEL 06 (6344) 3184

※複数の領収書等を貼る場合は、重ならないように貼付してください。



# 政 務 活 動 報 告 書

会 派 名  
代 表 者 氏 名

民 主 党  
玉 木 実



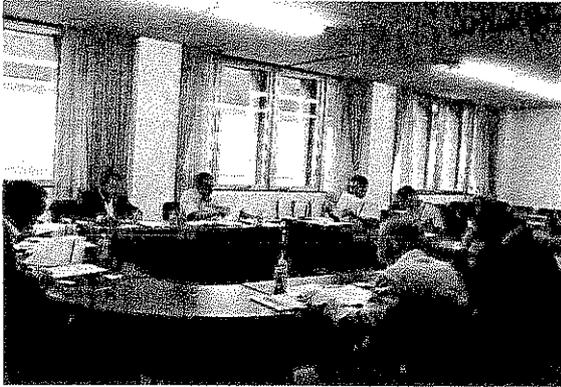
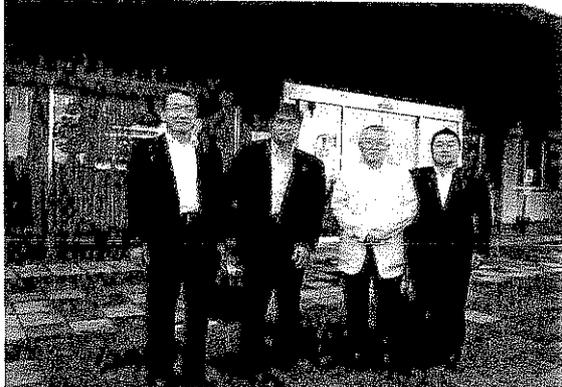
区 分	調査研究費 ・ 研修費
日 時	平成27年7月6日～平成27年7月8日
参加者名	酢崎美行 金丸和史 桜井正夫 小川利彦 玉木実 稲尊健 増田葉子
応 対 者	柏原市 松原市 富田林市 佐藤忠 青山洋子 竹田浩章
場 所	大阪府柏原市～松原市～富田林市
目 的	柏原市…ゴミ分別アプリについて 松原市…セーフコミュニティについて 富田林市…携帯電話情報サービス事業について
内 容	ゴミ分別アプリ…スマートフォンやタブレットでゴミの分別日・回数 セーフコミュニティ… <sup>の確認が取り</sup> 障害や事故予防が地域ぐるみで予防できる 携帯電話情報サービス…パソコンで携帯端末を利用して市の情報を取り出す
成 果 等	スマートフォンやタブレット端末を利用して各市役所の情報を細かく分野まで取り出すシステム作りがあり 伊西市で行政情報通信の新たな方法として導入を検討したい。

※参加者の入った写真（調査風景・施設玄関入口）及び行程表を添付する。

政務活動費事業実施報告書

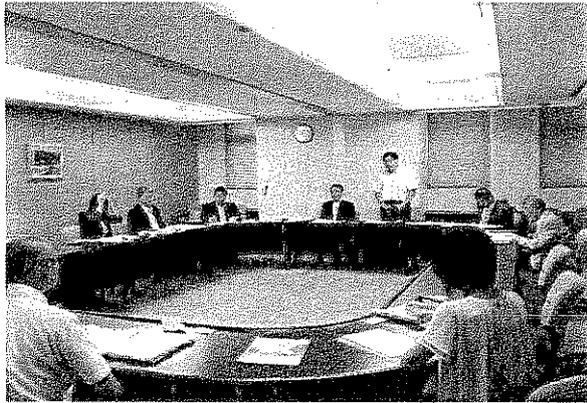
会 派 名 民主党

代表者氏名 玉木 実

件 名	先進地視察①		
	ごみ分別アプリについて		
内 容			
実施日	7月6日 14時～16時		
視察場所	大阪府 柏原市		
説明者	柏原市 市民部環境保全課 次長兼課長	渡辺 敏弘	
	柏原市 議会副議長	岸野 ゆみ子	
	柏原市 議会事務局長	佐藤 忠	
参加者	酔崎 義行 金丸 和史 桜井 正夫 小川 利彦		
	玉木 実 (稲葉 健)		
成 果	スマートフォンやタブレットでごみの分別や回収日等の確認が取れるアプリケーションを行政サービスとして提供している。		
	若い人向けの行政からの周知方法としてこれから多方面での利用が期待される。(詳細は別紙)		
写 真			
			

会 派 名 民主党

代 表 者 氏 名 玉木 実

件 名	先進地視察②					
	セーフコミュニティについて					
内 容						
	実施日 7月7日 10時～12時					
	視察場所 大阪府 松原市					
説明者	市民協働部 市民協働課			議会事務局		
	参事 青山洋子			参事 高橋 猛		
	課長 北野一雄			次長 小峰 正男		
	課長補佐 芳川和也					
	係長 西村公貴					
参加者	酢崎 義行 金丸 和史		増田 葉子 桜井 正夫		小川 利彦	
	玉木 実 (稲葉 健)					
成 果	WHOセーフコミュニティ協働センターが定めた7指標に基づき、障害や事故といった健康の阻害要因を地域ぐるみで予防することにより、みんなが安心して生活できる安全なまちづくり＝豊かなまちづくりを目指すもの。					
	市長のトップダウン。(詳細は別紙)					
写 真						
						

会 派 名 民主党

代 表 者 氏 名 玉 木 実

件 名	先進地視察③						
	携帯電話情報サービス事業について						
内 容							
実施日	7月 8日 10時～12時						
視察場所	大阪市 富田林市						
説明者	市長公室	次長代理兼情報公開課長	竹田 浩章				
		参事兼広報係長	丹上 順隆				
		情報公開課	田中 啓文				
	議会副議長				草尾 勝司		
	議会事務局補佐				木口 百子		
参加者	酢崎 義行	金丸 和史	増田 葉子	桜井 正夫	小川 利彦		
	玉木 実	(稲葉 健)					
成 果	パソコンや携帯端末を利用して市の情報を受けてもらうメール配信システム。市民がメールアドレスを登録し、希望するアイテムの情報を受けることができる。平成16年から開始し、現在17のメニューがある。印西市でも行政情報配信の新たな方法として導入の検討を期待したい。						
	(詳細は別紙)						
写 真							
							

## 大阪府柏原市視察研修概要

研修日時 平成27年7月6日(月) 14時～16時

研修場所 柏原市役所

柏原市対応議員 岸野友美子副議長

柏原市対応職員 市民部次長兼環境保全課長 渡辺敏弘

環境保全課環境保全係主事 野宮正浩

視察議員 酢崎・金丸・櫻井・玉木・稲葉・小川(利)

視察目的 ゴミ分別・ゴミ収集に関する調査研究

視察内容 ゴミチェッカーについて

・柏原市のゴミチェッカーとは、スマートフォンアプリを使用した行政サービスである。

市の広報誌や配布物でも、ゴミの分別や収集日・収集箇所は周知されているものの、更に周知して頂く事を目的として他市の取り組みを参考に柏原市でも導入したとの事である。

また、柏原市でのゴミチェッカーは、他の自治体でも導入出来るようなエクセルで作成されているのも特徴であります。

## 質疑応答

Q 目的として、転入されて来た方用でしょうか？

A 基本的には全市民であります。今後は外国人対応を検討中。

Q 議員提案でアプリが出来た様ですが、他課でも検討しているものはありますか？

A 検討しているアプリが多数あります。

Q 職員さんのレベルが高い方が居たからだと思えますが？

A ゼロから勉強すれば、誰でも簡単に作成する事は簡単であります。職員さんの意識改革が必要であります。

Q 利用状況については？

A 月500件程度（5月末現在）

Q 基本的に分別周知が目的でしょうか？

A 分別が最悪な状況なので、市としても積極的に取り組む。

Q クリーンセンターは単独でしょうか？

A 3市合同での運用となります。

Q システム改修については、委託又は職員さんでしょうか？

A マニュアルがあれば、職員でのシステム改修は出来ます。

しかし、分別品目が増えると大変な事になります。

Q 柏原市の広報誌面にPR記事がありませんが、PRの手法と周知の徹底方法については、どう考えておりますか？

A 広報誌にも掲載を依頼しているが、却下される事が多い。  
違った形でのPR方法を検討中であります。また、他のアプリとの連携も検討中であります。

#### 視察研修概要

大阪府の柏原市にて、ゴミチェッカーというスマートフォンアプリによる配信サービスは、素晴らしい取り組みであると思えました。当印西市も配信サービスを導入すべきと思います。

広報誌を読まない市民に対して、どの様にしてPRするかという点は、今後の検討になります。

携帯電話の所有者の大半が、スマートフォン利用者であるという調査結果も出ております。この制度でゴミ関係だけでなくて行政サービス全般の配信サービスとなる事を願うものであります。

## <視察報告②>

大阪府松原市

視察日時：平成27年7月7日（火） 10時 ～ 12時

【視察テーマ②】セーフコミュニティの取組について

対応者：松原市役所議会事務局 高橋事務局長、小峰次長

説明者：市民協働部市民協働課 北野課長、芳川課長補佐、西村係長、青山参事

松原市では、『セーフコミュニティ活動』について視察を実施。松原市が市民、行政、関係機関等が協働で進めている『セーフコミュニティ活動』が世界的な指標に基づいていることが認められ、大阪初のセーフコミュニティ国際認証都市となっている。今回の視察では、『セーフコミュニティ活動』についての概要、取組方法等について説明を頂き、質疑に対しての答弁を頂いた。

### 1. 【松原市の特徴】

大阪府松原市は、大阪府のほぼ中央に位置し、北は大和川を隔てて大阪市、南と西は堺市という2つの政令指定都市に接する市である。1955年2月1日、2町3村が合併し、人口3万6,000人の田園都市として発足した。1970年代に急激に人口が増加し、現在では人口約12万人あまりの住宅都市に変貌している。

〈人口〉（平成27年2月28日現在）

総数：122,689人

男：59,207人

女：63,482人

世帯数：54,823世帯

### 2. 【セーフコミュニティとは】

「セーフコミュニティ」とは、「すでに完全に安全な状態である」コミュニティではなく、「体系だった方法によって安全の向上に取り組んでいる」コミュニティのことです。「コミュニティ」とは、地理的範囲、共通の関心、専門的な組合や連合などから構成されるグループ、あるいは特定の立場においてサービスを提供する人々です。ですから、「セーフコミュニティ」のもつ意味は、一つだけではありません。ですが、多くのコミュニティでは、そのことに気づかないままに、ただ漠然と「安全なまち」という目標を目指しているのです。セーフコミュニティ活動が他の傷害予防のためのプログラムと異なる点は、コミュニティが主体となってプログラムを推進するという点です。また、事故や傷害を予防するためには、まず何が問題であるのかを明らかにし、その対策を講じ、その対策によって得られた成果を評価することが必要とされている点です。

セーフコミュニティは「みんなが安心して生活できる安全なまちづくり」として下記の7つの指標を掲げている。

- ①分野の垣根を越えた協働による連携の仕組み
- ②両性・全年齢・環境・状況を網羅する長期的、継続的な予防活動
- ③ハイリスクの集団や環境に着目し、社会的弱者を対象とした予防活動

- ④入手可能な根拠に基づいた予防活動
- ⑤外傷の頻度と原因を継続的に記録する仕組
- ⑥予防活動の効果を測定・評価する仕組
- ⑦国内外のセーフコミュニティネットワークへの継続的参加

### 3. 【松原市におけるセーフコミュニティに取り組む背景及び取り組み経過について】

#### (1) 背景について

松原市の課題として「少子高齢化」、「地域のつながりの希薄化」、「複雑化した地域の課題」があげられているがこれらをSC活動（社会貢献活動）によって個々の問題を点から線、さらには面としているいろいろな方向から捉え検証し、協働活動していく事となった。

#### (2) セーフコミュニティ取得の経緯

- 2011年5月 セーフコミュニティ取得宣言及び認証準備段階都市登録
- 2011年7月 セーフコミュニティ推進協議会の設置
- 2011年12月～ 重点課題の設定、6対策委員会の活動開始
- 2012年10月 事前審査、その助言を活かし活動を継続
- 2013年5月 認証申請書を提出
- 2013年8月 現地審査
- 2013年11月16日 大阪初のセーフコミュニティ国際認証所得！！

### 4. 主な質疑

- Q. セーフコミュニティ取組のきっかけは？
- A. 市長が街づくり大方針として取り入れた。
- Q. 専門的な知識はどこから調達したのか？
- A. 日本セーフティコミュニティ推進機構からコーディネートしてもらった。  
他市への現地審査、認証式に赴いて教えて頂いた。
- Q. 組織的な連携はどうか？
- A. 当初は、うっとうしがられていたが、じょじょに浸透していった。  
特に対策委員会で役割を持つことになってからは、連携ができるようになった。
- Q. 自殺率が高い年齢層、犯罪率はこの5年間でどのように変わっていったか？
- A. 自殺率は徐々に減っている。犯罪率も減っている傾向にある。  
また、犯罪の内容は凶悪なものというより軽度な事件が大半。
- Q. 自治会町内会の意識が5年間でどう変わってきているのか？
- A. アンケート調査では認知度は30数パーセント認知度である。
- Q. 取組は数ある中から選んでいるのか？
- A. 原因を究明し、その為防止の為の取組をあげ、対策委員会で選んでいる。
- Q. 予算は？
- A. 今年度は771万。

## 5. 総括

街の至る所に「セーフコミュニティ」のステッカーや看板がとても目につく所に貼られている。

市役所の車にもステッカーが貼られていた。本当に街をあげての「セーフコミュニティ」の推進を掲げている様子が伺える。

また、実施するにあたって首長のリーダーシップがとても重要である事が伺える。印西市においても是非検討に値する内容であると考ええる。

## 富田林市視察研修報告

携帯電話情報サービス事業について

(質疑応答の中から)

◎ とんだばやしメール

携帯電話：スマートフォン：パソコンメールを利用して、富田林市の情報を受け取るメール配信のツールとして利用促進している。

◎ 平成16年7月より開始・・・当初8つのメニューでスタート

◎ 平成21年7月より「いくくるメール」(株式会社スマートバリュー)に前面移行・・・17の配信メニューを市民に情報伝達

◎ 27年6月現在利用者登録件数：2842件

◎ 市の負担 月額 30,000円

◎ 担当は市長公室 情報公開課 広報課が担当している

◎ 公立小中学校、各保育園は同じシステムを利用して独自の情報発信を配信

◎ 新メニューの発掘し、更なる充実に努めている

市の広報の形式として、定期的に発行される広報紙、いつでも発信しているが閲覧を待っているインターネットを利用したホームページが一般的であるが、メール配信は「いつでもどこでも必要としてしている人に必要な内容を発信する」という情報提供の新しい形となる。

印西市の実情に合うか検討し、導入を提案していきたい。